

## 2025年度 第3回 (公社)新潟県栄養士会理事会 開催議事録

1. 日時 2025年10月18日(土) 13:00~16:30

2. 場所 Web会議 (Zoom)

### 3. 理事現在数および定足数ならびに出席理事数およびその氏名

理事現在数 25名 定足数 13名

出席理事数 24名 欠席理事数 1名

出席理事の氏名 斎藤トシ子、村山稔子、高橋洋平、山田祥子、北林紘、伊藤涼子、  
治田麻理子、石墨清美江、竹内瑞希、久志田順子、佐々木佳子、  
内田悠香、中俣裕子、山岸美恵子、鶴川一寛、村山千晶、  
内山智子、土田直美、堀川千嘉、丸山朝美、小林昌子、  
渡辺絵里子、斉藤幸子、山川琴栄

欠席理事の氏名 金子幸子

### 4. 顧問現在数および出席顧問氏名

顧問現在数 2名

出席顧問数 0名

欠席顧問数 2名 入山八江、折居千恵子

### 5. 監事現在数および出席監事氏名

監事現在数 2名

出席監事数 2名 角谷ヒロ子、大平真由美

### 6. その他出席者

事務局長 石月 公美子

柏崎支部副支部長 近藤由香里 (金子幸子\_柏崎支部長代理)

### 7. 議長の氏名 斎藤トシ子

### 8. 理事会の議事の経過の要領およびその結果

山田専務理事より、報告(9)資料差し替え(後ほど画面共有)がある旨の説明がなされた。

#### 1) 定足数の確認

本会はWeb会議システム(Zoom)により開催された。

出席者について、石月事務局長により参加者数の確認がなされ、冒頭で山田専務理事が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣した。

議事・進行を会長へ渡し、議事に入った。

## 2) 会長挨拶

斎藤会長より、参加者へねぎらいの言葉が伝えられた。更に、本会議の目的及び会員数・収入減の中で、県民・会員・組織発展のために、来年度事業をどのように計画するべきか、皆さんと知恵を絞りながら検討したい旨が示された。

## 3) 議案の審議状況および議決結果等

### (1) 2026年度新潟県栄養士会事業計画・基本方針(案)について (資料p1~)

斎藤会長より、2026年度事業計画立案にあたり、専門職倫理や健康立県の様々な計画から管理栄養士・栄養士の活動が求められている背景をもとに基本方針を立案した旨が伝えられ、各基本方針について資料概念図を用いながら説明がなされ、支部及び職域事業部において立案する事業計画がどこに該当するのか、次年度の計画に活かしていただきたい旨が伝えられた。

各項目について、斎藤会長より、概念図を用いながら下記説明と意見交換がなされた。

#### 1.食育の推進について (概念図p2併用)

第4次新潟県食育推進計画ではライフコース別アプローチの食育推進を行うにあたり、当会は関係団体として県・市町村と連携・協働が求められている。また食育活動を積極的に実施している認定栄養ケア・ステーションとも連携を図ること等を意識し立案した。

#### 2.低栄養予防および在宅医療(栄養)の推進(地域包括ケアの推進) (概念図p2併用)

地域包括ケアの推進に向けた管理栄養士が関わる各施策について、地域栄養ケア担当はじめ支部会員が積極的に協力し、支部活動を強化していきたいと考えている。また、多職種連携、他施設・他団体とのネットワーク構築を踏まえ立案した。

#### ○補足

- ・新潟県の栄養ケア・ステーションの課題は、居宅療養管理指導において医師との契約が結びつかないことであり、この伸び悩みは今後、国の議論になる可能性もある。
- ・病院と施設の栄養情報連携・食事形態一覧表の整備及び関連する支部研修は、現在進められている。

#### 3.大規模災害時の栄養・食生活支援体制の整備 (概念図p4併用)

マニュアル作成に関与した関係者への感謝の意が伝えられた。

新潟県栄養士会本部と支部との連携強化を図りたい。

企業等のネットワーク構築に関しては、いつどこで発災するかわからない事態に備え、ドラックストア等企業とのネットワークを構築することで、地域の様々なところへ非常食・特殊食品の備蓄を図りたい。また将来的には賛助会員および会員確保につなげたい。

4) に関して現在、土田災害支援準備担当より進めていただいている。

#### 4.栄養の科学と実践スキルの向上を図るための研修の強化

無料研修が沢山あるなか、有料であっても新潟県ならではの魅力的な研修を構築したい。

## 5.会員増対策の強化

過日行われた関東甲信越地区栄養士会長会議において、茨城県における対面研修による会員増につながった報告があった。当会においても顔が見える関係づくりができる企画を盛り込んでいただきたい。

営業活動などにより賛助会員増も含め、会員増を強化したい。

### ○意見交換

北林理事) 1-3)、2-4) 双方に認定栄養ケア・ステーションが盛り込まれているが、双方に必要か。

斎藤会長) 過日常任理事会において、認定栄養ケア・ステーションは積極的な食育活動を行われているとのことより、2だけではなく1にも盛り込んだ。

北林理事) 支部によっては認定栄養ケア・ステーションがない。

斎藤会長) 設置されている支部は連携を意識していただきたいという意味である。

⇒賛成多数（16名）により承認

### (2) 旅費について（p5）

石月事務局長より、資料に基づいた説明と佐渡支部長了承済みである旨の報告がなされた。

⇒賛成多数（18名）により承認

### (3) 特定費用準備資金（学術的費用）について（p6～）

北林理事より資料に基づいた説明がなされた。

斎藤会長より下記補足の後、意見交換がなされた。

### ○補足

- ・研究というと特別感があるが、『実践的』とあるように、日々の業務の中のデータのまとめ等、全職域の方が参加していただける内容にしたいと考えている。また、日々の事業をデータ化、事業評価することで、次のステップに役立てていただきたい。
- ・本事業を始める前に、事業の趣旨の説明や講演など参加につながるようなキックオフミーティングの提案が村山副支部長よりなされたため、多少内容が流動的になる場合があるが予算内で実施する。
- ・講師に大学教員と連携する理由は①さらに詳しく学ぶ場合は大学院へ繋げる②大学側の実践現場の状況（持っているデータと事業評価・活用方法がわからない等）把握及び大学と実践現場の連携の2点にある。

### ○意見交換

治田理事) 各職場で様々なデータを持っていると思う。発表の場があるのは良い。できるところは協力させていただきたい。

竹内理事) 対象者 20 名をファシリテーター5 名で指導するのか。他のところでは 1 人当たり 2 名と聞いている。

斎藤会長) 講義・演習・グループワークは全員で参加し、演習・グループワークでは対象者がメインとし、ファシリテーターはサポートするイメージである。リサーチクエスチョンをたて、取り組み、発表をサポートする程度と考えている。

⇒賛成多数 (16 名) により承認

#### (4) 新潟県栄養士会勤労者支援・地域活動事業部統合について (p8)

山川常任理事より資料に基づき説明がなされた。

⇒賛成多数 (21 名) により承認

山川理事より、2 つの違う事業の統合のため、早急に全部が一つになるわけではない。追々一つの方向に向かえばと思っている旨の意向が示された。

#### (5) 機関誌『栄養新潟』について (p9～)

山川常任理事より資料に基づいた説明ならびに下記補足、意見交換がなされた。

##### ○補足

- ・昨日一斉メールにより「アンケート」を実施した。  
アンケート結果は 3 月理事会にて報告を行う。  
理事各位へ、会員への回答周知に関する協力依頼がなされた。
- ・次年度号の表紙写真担当は、十日町支部であり、協力依頼がなされた。
- ・地域栄養ケア担当掲載については、山田専務理事と相談の旨が示された。

##### ○項目①②③に関する意見交換

内田理事) 新人紹介について、個人情報保護の観点から適切である。

##### 項目①②③について

⇒賛成多数 (18 名) により承認

##### ○構成案に関する意見交換

斎藤会長) トピックスは両案載せるのか、片方なのか。

山川理事) どちらかの掲載を考えている。

##### 構成案について

⇒賛成多数 (19 名) により承認

山川理事より、アンケートに回答のあった 50 名の意見を確認したところ、様々なご意見をい

ただいた。これから回答される皆様からも、忌憚ない意見をいただきたい旨の協力依頼がなされた。

#### (6) 2026 年度生涯教育・職域研修その他研修の整理・一体化について (p13)

村山副会長により、研修候補立案に対する感謝の意が伝えられた。また、総会講演との関連性を持たせる目的が伝えられ、資料に基づいた説明ならびに下記補足、意見交換がなされた。

##### ○補足

- ・今後、実践研究、JDT-DAT 研修、栄養ケア・ステーションの内容が決まり次第、合わせて検討していきたい。
- ・内容（分野）及び開催月に重複はない。
- ・第一候補を優先したい。

##### ○意見交換

###### ✓地域活動事業部\_食事摂取基準 2025 について

山 川 理 事 ) 地域活動は候補①②があるが、他の事業部で『食事摂取基準 2025』が無い  
ため、②『食事摂取基準 2025』を優先すべきか意見をいただきたい。

小 林 理 事 ) 研究・教育事業部においても第3候補に挙がっており重要と考えるため、食  
事摂取基準 2025 を候補としても良いのではないか。

内 山 理 事 ) 栄養士として基本であるため、同意見である。

山 川 理 事 ) 地域活動は『食事摂取基準 2025』の方向で考えていく。

石月事務局長) 総会の講演内容にすることも可能である。

斎 藤 会 長 ) 地域活動の候補 2 つのうちいずれかを総会の講演内容にするか否かは、今後  
研修部と地域活動で検討いただきたい

村山副会長) 来年度の栄養士研修会も背景に検討していきたい。

###### ✓公衆衛生事業部\_生涯教育・職域事業部研修について

土 田 理 事 ) 対面を前提に考えていたため、生涯教育がオンデマンド中心であれば職域事  
業部の内容とさせていただきたい。

村山副会長) 生涯教育として対面で実施したらどうか

土 田 理 事 ) 予算の関係もあるため、職域事業部として優先的に押さえない。

村山副会長) 全会員対象ではなく、公衆衛生事業部中心と考えてよいか。

土 田 理 事 ) そのような形にさせていただきたい。

村山副会長) 公衆衛生事業部は、生涯教育は挙げないとなるか。

土 田 理 事 ) 各部 1 つに限らず、いい内容があれば複数行っても良いのではないか。

村山副会長) 1 事業部複数となると負担が生じる。職域事業部からのテーマの挙げ方や全  
体実施回数等意見をいただきたい。

山 川 理 事 ) 受講者の立場として、選択肢が多い方が良いのではないか。

1 つの事業部が複数受け持つことは、講師とのやり取りやアンケート集計な

ど負担が生じるため、各事業部均一化すると良いのではないか。

齊藤理事) 公衆衛生事業部からは生涯教育のご提案いただけないということか、それともご提案の猶予があるということか。

土田理事) 研修が多々あるため整理したいので必要なものを出し、年間計画を検討すると認識していた。従来通り各職域事業部から研修テーマを挙げるのが、研修整理の前提条件であれば検討したい。

齊藤理事) 本年度の反省を踏まえ、全体の研修の重複を避ける、及び予定を立てやすくするための整理と認識しており、生涯教育・職域事業部どちらか一方という想定はしていなかった。受講者の選択肢を考慮すると来年度は従来通り実施し、実施回数については今後検討しても良いのではないか。

公衆衛生事業部から、生涯教育を提案していただけると助かる。

来年度の生涯教育に関して、従来通り各職域から1項目あげることについて

⇒賛成多数(18名)により承認

公衆衛生事業部は生涯教育の研修提案を検討いただきたい旨が示された。

村山副会長より、今後、生涯教育の回数等、会員に向けたアンケート実施を検討する旨が示された。

尚、村山副会長より、講師依頼ならびに研修構成について進めてよい旨が示された。

齋藤会長より、研修の日栄と県栄のすみわけと、顔が見える関係として、90分全て講義ではなく、講義60分+事例報告・ディスカッション30分の抱き合わせる構成を検討いただきたい旨が示された。

また、山川理事より、「新潟県らしい研修」としてこの度、地域活動事業部の研修は「小児アレルギー」について新潟県の講師を選定したが、新潟の現状を踏まえた講義であった。また質問と回答というディスカッションができた旨の紹介がなされた。

#### (7) 賛助会員入会申請について (p14~)

山田専務理事よりバイオテックジャパン様からの賛助会員新規申し込みについて、資料に基づき説明がなされた。

齋藤会長より、賛助会員になったことによる企業側のメリットは、いかに企業を活用・PRしていただけるかにあるため、賛助会員の参加について考えさせられた。また、企業から栄養ケア・ステーション事業に繋がる依頼があるため、賛助会員の要望を聴きながらいい関係をつくっていきたい旨の補足がなされた。

⇒賛成多数(23名)により承認

山田専務理事より、以降、事務局賛助会員担当者により手続きを進める旨が示された。

齋藤会長より追加報告がある旨が伝えられ、(11)自治体栄養士配置要望について報告がなされた。

#### 4) 報告

##### (1) 大阪・関西万博参加について

齋藤会長より、日本栄養士会ホームページに掲載されている記事を資料共有し、各県の郷土料理の検索方法ならびにアジアフォーラムの紹介がなされた。

##### (2) 栄養改善学会展示について

村山副会長より、9月に開催された本学会における関東甲信越地区ブース（東京、神奈川、栃木、群馬、山梨、長野、新潟）へ、80周年記念で作成された「各事業部活動ポスター」を掲示した旨の報告がなされた。

また、ポスター作成関係者へ感謝の意が伝えられた。

##### (3) 2025年度関東甲信越地区栄養士会長行政・連盟合同会議について（p19～）

山田専務理事より、1日目の行政合同会議について資料に基づき下記報告がなされた。

- ・各県における会員増対策の意見交換では、茨城県における対面での研修効果が印象的であった。
- ・訪問栄養食事指導における実績の伸び悩みでは、診療報酬上の厳しさ等栄養士会としての取り組みが課題である。
- ・企業、ドラッグストアの管理栄養士・栄養士は、会員増・地域連携において重要である。

角谷監事より、2日目の連盟合同会議について資料に基づき下記報告がなされた。

- ・会員増は各支部共通課題であった。対面型の減少に伴い、連盟の役割を伝える場も減少にあり、連盟の大切さの理解が得られない。連盟イコール政治活動のイメージがあり拒否されることが多く、栄養士の身分や活動のために表裏一体の団体であることを理解していただくことが重要である。
- ・会員管理システムの活用について、2024年から連盟だけのシステムとなり、栄養士会会員が把握できなくなったため、誰に声掛けしたらよいのか、全国的に困っている意見が多くあった。
- ・議員と顔を合わせる機会が減少傾向にある。新潟県に至っては与党議員がいない。新潟県の連盟会員が17%であるため、議員応援・協力も声掛けできない状況にある。群馬県の「ミニ集会」や他県の総会への議員招待等の紹介がされ、県栄との検討が必要である。
- ・栄養士会と連盟の関係について、関東甲信越地区は良好である。

齋藤会長より、高橋副会長による「自身も連盟ならびに栄養士会の活動を理解する機会がなかった。自身が所属する職場団体、職域における研修会の場で、連盟を紹介する機会を設ける協力をさせていただきたい。」旨の発言が紹介されると共に、理事に向け、他（多）職域、支部活動の際にも声掛けして欲しい。会員増にもつなげたい旨の協力依頼がなされた。

##### (4) 支部長アンケートの結果について（p21～）

石月事務局長より、支部長の引き継ぎ状況を鑑み、支部体制見直しを目的としたアンケート

ト結果について資料に基づいた説明と下記補足がなされた。更に、支部役員の役割のアンケート結果について、資料に基づいた説明と下記補足、ならびに意見交換がなされた。

#### ○補足

- ・役員の集約を今後検討したい。
- ・地域栄養ケア担当は支部によって認識が異なるため、共通認識を図り、地域栄養ケア担当と支部内会員の情報連携を強化し、活動に繋げる必要がある。
- ・会計・事務局・ホームページ委員についても検討したい。
- ・アンケート結果は、支部長各位へ共有した。

#### ○意見交換

##### ✓連絡体制について

治田理事) 各支部長が全職域分の連絡体制を作成することは負担が大きく、個人情報保管は控えたい為、今まで通り一斉メールを望む。

丸山理事) 学校協議会の連絡網は、栄養教諭が所属している学校が対象であり、全学校ではない。

小林理事) 各職域毎に作成することは利点もあるが、新潟支部は会員数が多い。また職場の管理栄養士がキャッチできるか否かも不明である。一律求めることは困難と思われるため、検討が必要と思われる。

⇒できそうな支部・職域は手挙げをするが必須ではない。

三役においても連絡体制については引き続き検討することとなる。

##### ✓支部役員会について

鶴川理事) 支部役員会へ事務局（事務局長、専務理事等）からオブザーバー的に参加していただくことは可能か。発想も詰まるため意見交換を活性化したい。例えば事業計画作成時その場でアドバイスいただければ、精査による再検討のタイムラグを防ぐことができる。

土田理事) 支部と県栄の連携には、普段から顔が見える関係性をつくっておくことが重要と考える。

斎藤会長) 都合があえば、気軽なイメージの顔出しで良ければ、できる範囲で考えたい。

村山副会長) 支部の困りごとは、実際の話をつまみ聞かないとわからないため大切なことである。

⇒三役、事務局長、顔出しできる人がいれば声掛けする。

都合がつかない場合はご容赦いただきたい。

#### (5) 支部長引き継ぎ事項について（資料2）

山田専務理事より資料の説明がなされ、①各自読み②読んで引き継げるか③動けるかを踏まえ④加除修正・意見等のコメント記入の協力依頼がなされた。

・べ切：11/30（日）

- ・支部長必須
- ・何もなければ「何もし」と返答

#### (6) 各種表彰受賞者について (p32)

山田専務理事より資料に基づき報告がなされた。

村山副会長より、斎藤会長はじめ推薦いただいた皆様のお陰と感謝の意が述べられ、10/24(金) 東京都市センターホテルで開催される授賞式に参加する旨が伝えられた。

#### (7) 2025 年度上半期の代表理事、専務理事業務執行について (p33～)

三役より、資料に基づき報告がなされた。

#### (8) 2026 年度事業計画・予算提出の留意事項等について (p40)

石月事務局長より、下記補足含め資料に基づいた説明と補足がなされた。

##### ○補足

- ・会場（旅費）の方が安価な場合は Zoom 開催が必須ではない。各自判断に委任する。

土田理事より下記報告がなされた。

- ・連絡事項①\_出雲崎町開催時は新潟支部長も参加され、来年につなぐ活動となる。また、女性財団様と協働し、県栄スペースにて避難所で活用されるリラクゼーション関係資料を配布する。

#### (9) 栄養ケア・ステーション拡大事業における営業について (p41～)

山田専務理事より、下記説明がなされた。

##### ○栄養ケア・ステーション拡大事業について

- ・特定費用準備資金の事業である。
- ・3年計画であり 2024 年 100 万、2025 年 100 万、2026 年 50 万の予算で計画されている。
- ・事業内容は①CS 登録者増加②CS 登録者の育成③CS への事業依頼の拡大である

##### ○チラシ作成経緯

来年度が最終であるが、③に導くための営業が全く実施されていないため、事業依頼主による来年度の事業計画・予算計画着手前に、営業による情報提供を行うことで③の依頼拡大につなげることを目的にチラシ作成を行った。

誰に、何を売らなければならないかを明確にした方が、依頼主側は依頼しやすい為、現在フレイルによる訪問栄養食事指導の実施実績や、地域ケア個別会議への参加、CS セミナーのテーマ（在宅高齢者）を鑑み、チラシ配布先を在宅高齢者への支援活動を担っている地域包括支援センター向けとした。

## ○営業方法

新潟市内及び山田専務自宅近隣市区町村へは、山田専務理事が直接訪問による営業を行う。

村上、柏崎、上越、佐渡等遠方の市区町村については、地域栄養ケア担当や地域ケア個別会議に参加している担当者へチラシを郵送し、会議に参加している地域包括支援センター職員へ配布の協力をお願いしたい。

\*依頼された担当者が、各包括支援センターを営業して廻ることはなく、参加した会議にて関係者に手渡して欲しい。

## (10) 栄養士研修会について

石月事務局長より参加者数の現状報告と理事からの声掛けによる参加勧奨の協力依頼がなされた。

〆切延長：10/21（火）

ホームページへポスター発表の抄録掲載済。

齊藤理事からも重ねて参加勧奨の協力依頼がなされた。

北林理事より、ポスター発表1題、二重発表のため辞退があった旨の報告がなされた。

## (11) 自治体栄養士の配置要望について

土田理事より下記報告がなされた。

### ○背景について

6/12付、日栄中村会長名にて各都道府県会長、組織事業部代表者宛に、自治体行政栄養士配置促進に関する要望活動を行うよう、通知が発出された。

本件については、昨年度初めて、市町村長宛に依頼書送付など具体的な活動を行った。

公衆衛生事業部における関東甲信越地区内では定常的に要望活動が行われている。

### ○活動について

本年度7月に30市町村の自治体栄養士へ向け行ったニーズ調査結果をもとに、10月末配置要望の活動（文書郵送・手交）を進める。

斎藤会長より下記補足がなされた。

・会長会議においても、栄養士活動拡大を目的に全県的な動きであり、栄養教諭、保育園への配置要望なども挙げられている。

## (12) その他

下記意見をいただいた。

✓大阪・関西万博について

石墨理事)大阪・関西万博に参加したが、多パビリオンではデジタル化による展示内容が多く、記憶に残らない中、栄養士会によるフードモデル展示やデモキッチンによる試食は、実物を見る・触れる・食べる体験ができ、心に残ると感じた。

斎藤会長) 新潟県「のっぺ」のフードモデルが県栄に送られてきたので、活用いただきたい。

✓支部長引き継ぎについて

大平監事) 支部長の引き継ぎは今まで公伝であったが、明文化されたことにより、良い引き継ぎに繋がるのではないかと期待する。

## 5) 閉会の挨拶

村山副会長より、理事会における活発な意見交換に関して感謝の意が伝えられた。  
来年度の新たな事業含め、事業計画の期限内提出や、引き継ぎ準備等、協力依頼と  
11/1 栄養士研修会への協力依頼がなされ、閉会とした。

—以下余白—

2025年10月24日

上記のとおり相違ないことを認めます。

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席監事 印

出席監事 印

議事録作成者 専務理事 山田祥子